

妹の濡れた唇

性欲の対象...それは妹。

ゼロの者
葛城ゆう
あらきよう
第六天魔王グレート他

成年
コミック

淫靡な行為に堕ちゆく兄妹！
いもうと専門近親相姦アソソロー!!

COVER ILLUSTRATION by ゼロの者

性欲の対象...それは妹。

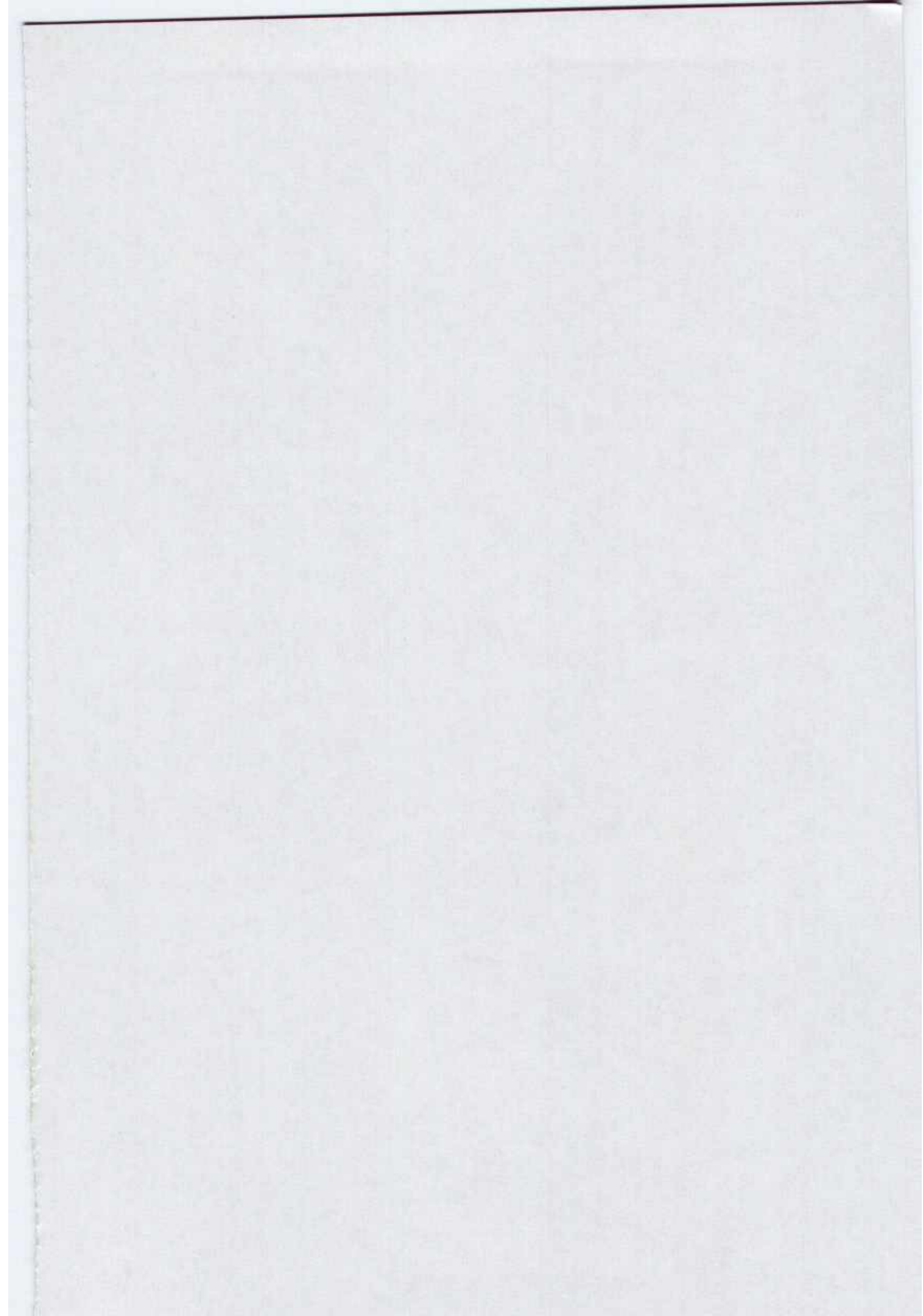
妹の濡れたい瞬間

ゼロの者
葛城ゆう
あらきよう
第六天魔王グレート

成年
コミック

淫靡な行為に堕ちゆく兄妹！
いもうと専門近親相姦エブソロジー！！

COVER ILLUSTRATION by ゼロの者



イラスト/かんとり



濡唇 妹のた

学校行事

修学旅行

※要事項を記入して下さい。

濡れ唇の妹





オレのやらしい
妹っ

ああ
ああ
八葉は
やらしい



お...兄ちゃん
もつと...触ってえ

八葉のいやらしい
トコ...ナメナメ
してえ...



お兄...ちゃん...

あ...たしの体...
やらしい...でしょ?



やらしいトコ
...
はやくうー



お...!?



ここがぁ?
ここが いいんがぁ

ん...

これこそ理想の兄妹像!?

ケンカするほど ゼロの者 仲良し

ん……
ケンカの最中に
見る夢って
きまってあーいうん
だな……



……



……

見てんじゃん
アンタバカア
短足っ
サル顔
っつ

えーっ
見てねーよっ
ブスブス
っ



なによっ
!?
サル……

うっしーし
んだよ
テメエはっ



何見てんのよ
サル助っつ

誰も見てねーよっ
クソブスっ



たくっホント
呆れてモノも
言えんわ

どこの世界に
兄妹ゲンカで妹の
腕折る兄が
いんのよっ

…
ああもう
わかったって

……

…
わかった…な

ホラ八葉に
ちゃんと謝んなさ
いよっ

—ちゃんど
謝れっ
アンタはアー

あ—
お母さんもう
いいって別に

身の回りの世話
これからその人に全部
やってもらうから

!?
ふざけんな
テメエ

何で
俺が—

あ—
いたあ—い

いったあ—い

何れ

……っ



ひたすら
こき使われる
毎日で...

.....



んー
美味 美味

.....
っつ



—それからと
いうもの...



最近静かで
いいわー

...

たしかに
ケンカはしなく
なった



.....

その宿題
終わらせたらコンビニ
行ってきた



それは一方的に
俺が抑制してる
ワケで...

オレも骨
折りによ...

しかも
それが当然のように
慣れ始めてた



きやははっ
くすぐったあー

コラっ 動くんじゃねー
耳突き刺さん
だろーが

だって
さー

.....

はいよ
おわり



えーっ
まあーだっつ
もうちよつと

もう何も
ねーよホラ
どけって



けどまあ
何だよね



お兄ちゃんが
ここまでするなんて
さー

なんか
意外ー



あーそう…

へーこいつが
俺をお兄ちゃん
てねー…



なんかこういうのも
よくない？
ケンカとかー
いいかげん
うっとおしいしさア

あーそう

そりやおめーは
いいよなっ



でもアレかなー
この手治ったら
やっぱ…アレだよ
ね…



な…
こ…いつ…
ノーブラじゃねーか

に…しても…
な…生々…しいな…
このライン…

夢じゃねーけど
マジ

やら…しい体…
してんなア…コイツ

パジャマ
持ってきてー

…今…までの
仕返しとか何か
言って…

ちよつと…
触…てみたりとか

パジャマ
はー！

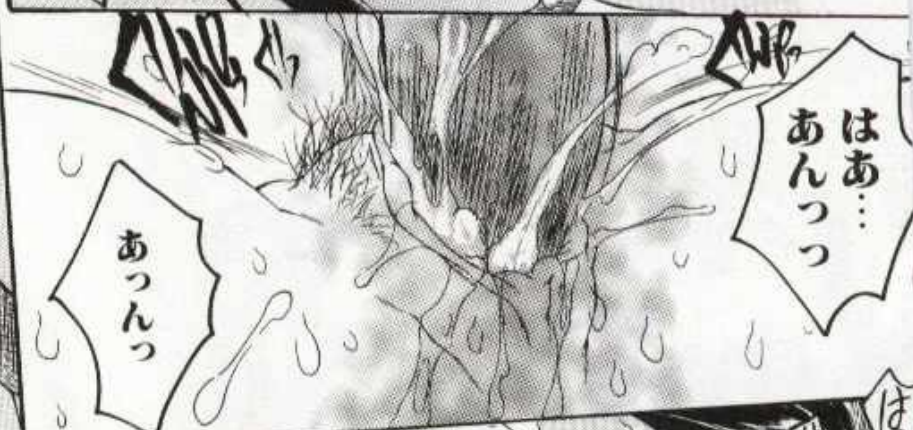












あ あ
っ っ

あ は
っ っ

あ
~~~~  
~~~~  
~~~~

…あ—

えっと…  
何…だっけ…

パジャマ…  
だったよな…  
……

はあ—

~~~~~


うっせー
ばーかっ

アンタが
うっさいのよっ
サルっ

まったく
アンタらは
コリないっていうか

ケンカする程
仲が良いって言うし
ね

ま
アレか

.....

ケンカ...
ね！

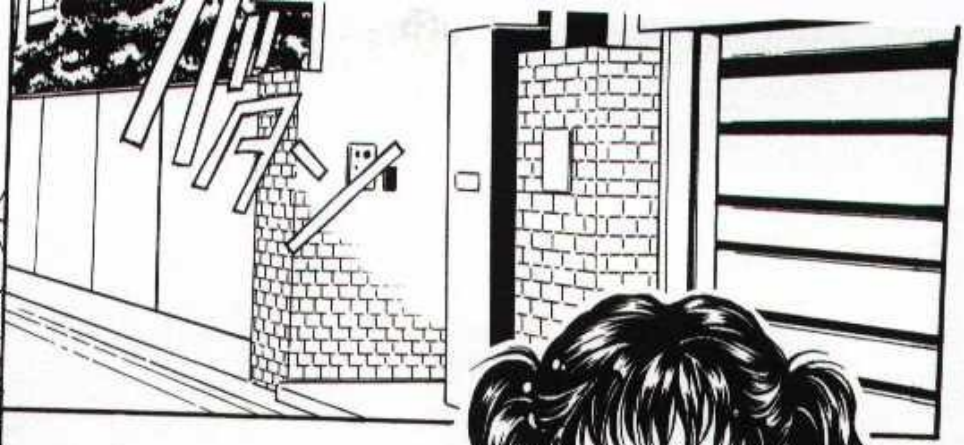
ま半分は
そーだけど

.....

「これ」の
合図みたいな
もんなんだよな
アレ以来...

たしかに
別の意味で
仲はいいか...

おしまい





妹の前では気丈に
振る舞っていたが
僕の心は――

乱れて
いた……

性 ～SAGA～

葛城ゆう

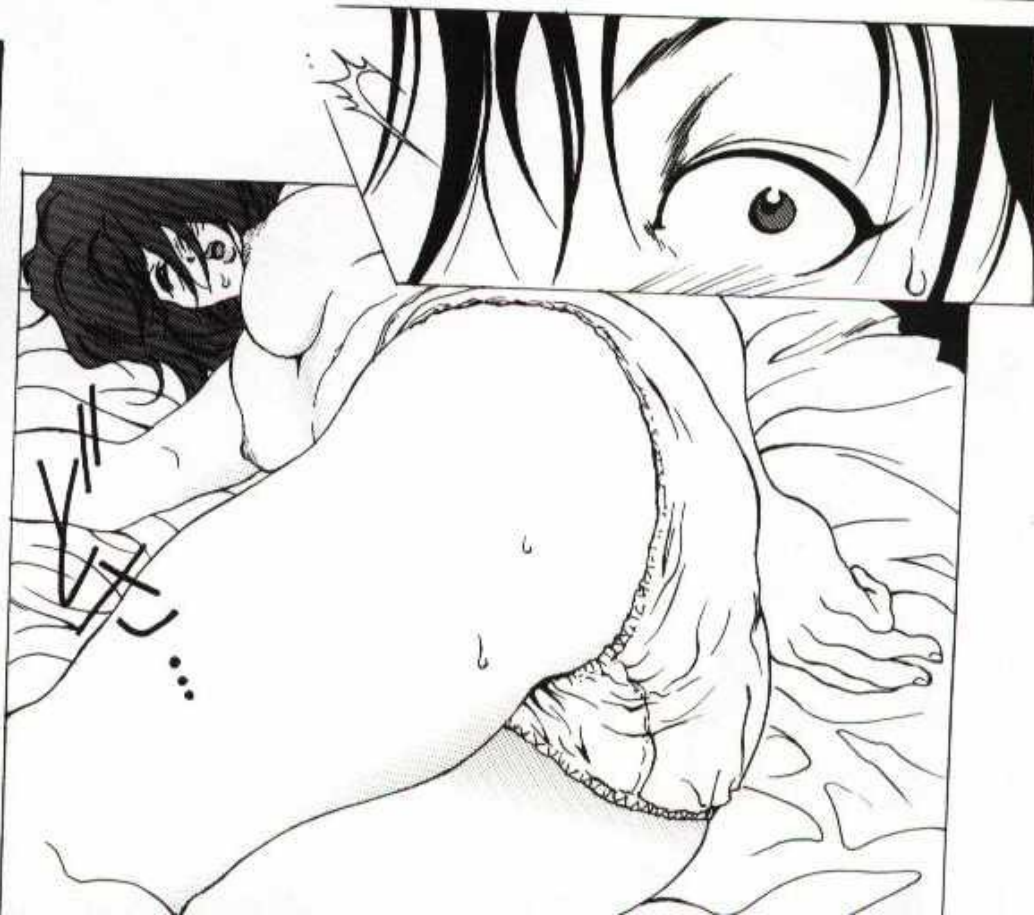
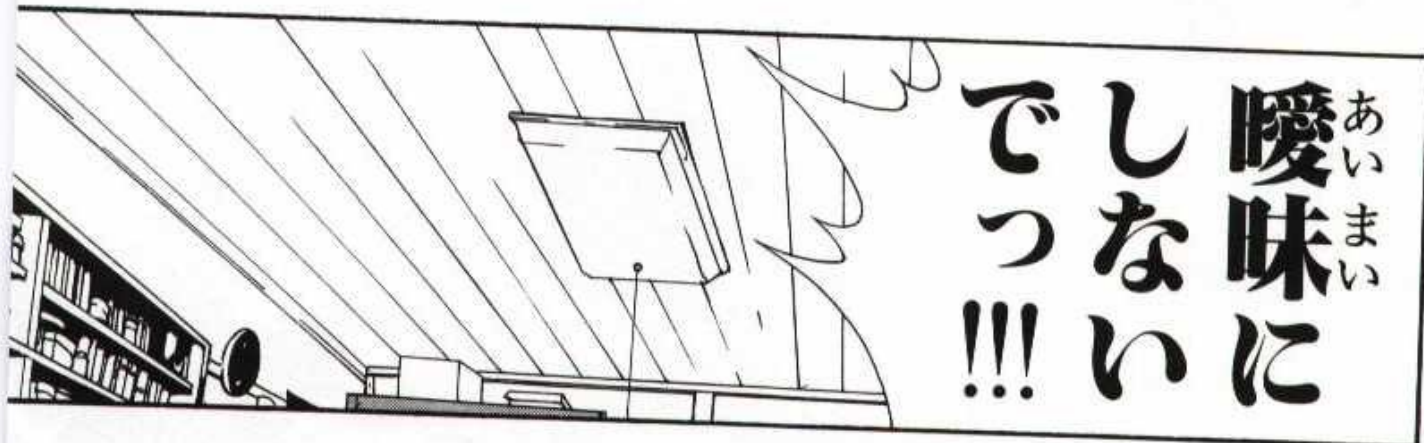


大切な僕の妹に…なにがあったのか!?



妹の濡れた唇







は...
恥ずかしいから
早くしてね

ああ...



わかった...

ちゃんと
調べるから
パンツぬいで—

うん...



い...
の...

...

カラダ...



い...
痛かったら
言うんだぞ...な?

ん...

こんなに
真近で見るの
なんて8年ぶりだ

妹の濡れた唇



ダメええっ
そんな事してちやあ





ああつ

まごのごこ
どつても
おいじいよ

—
つ

あ…
はア

はあ



や…ああつ
すこ…

かち かち

いつつ



お兄ちゃん…

お兄ちゃ
んつつ

アア!!!





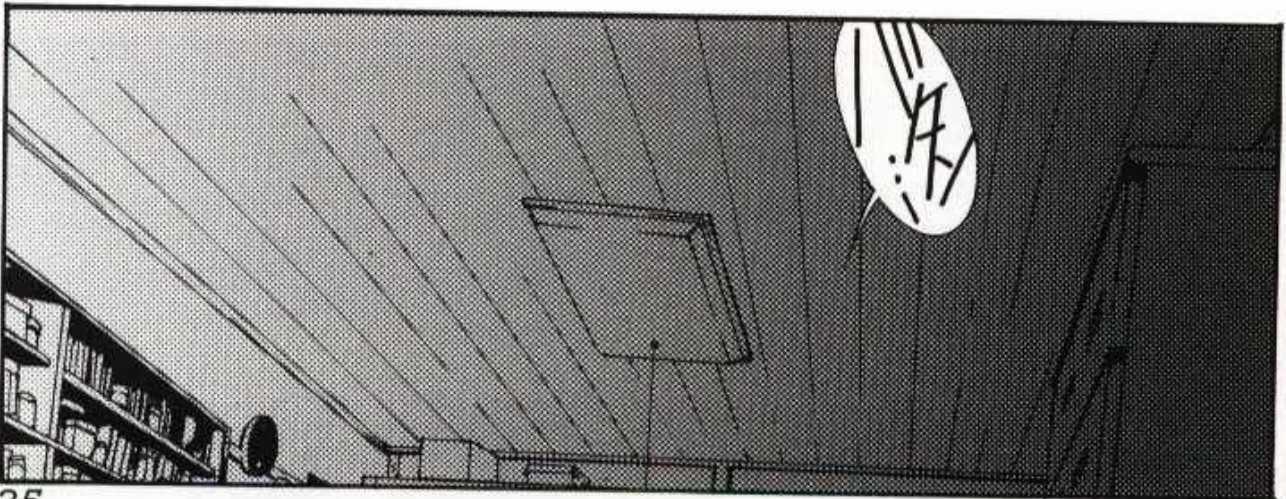
秘めた想いを
ぶつけ合った
この夜：

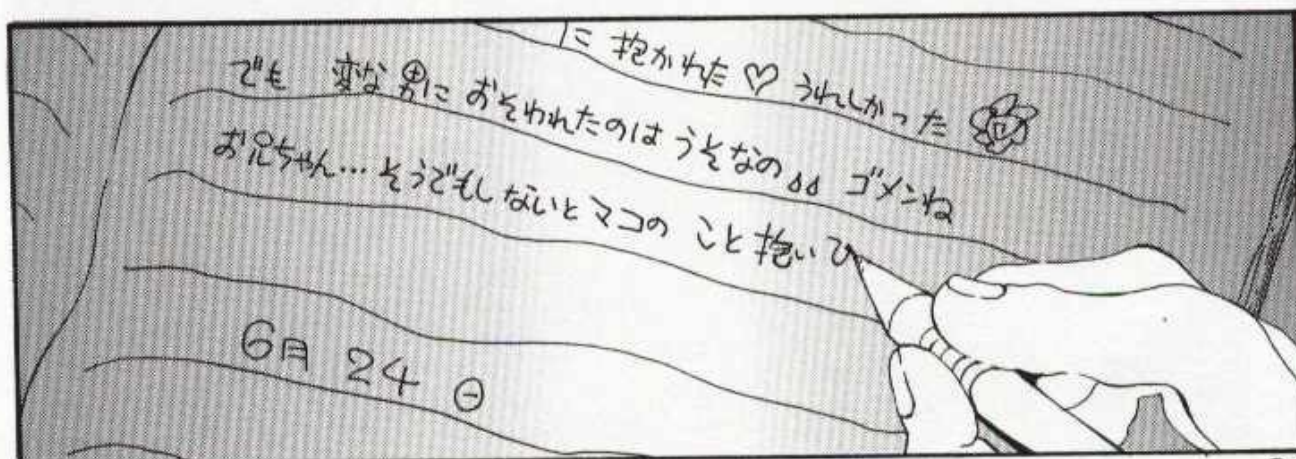
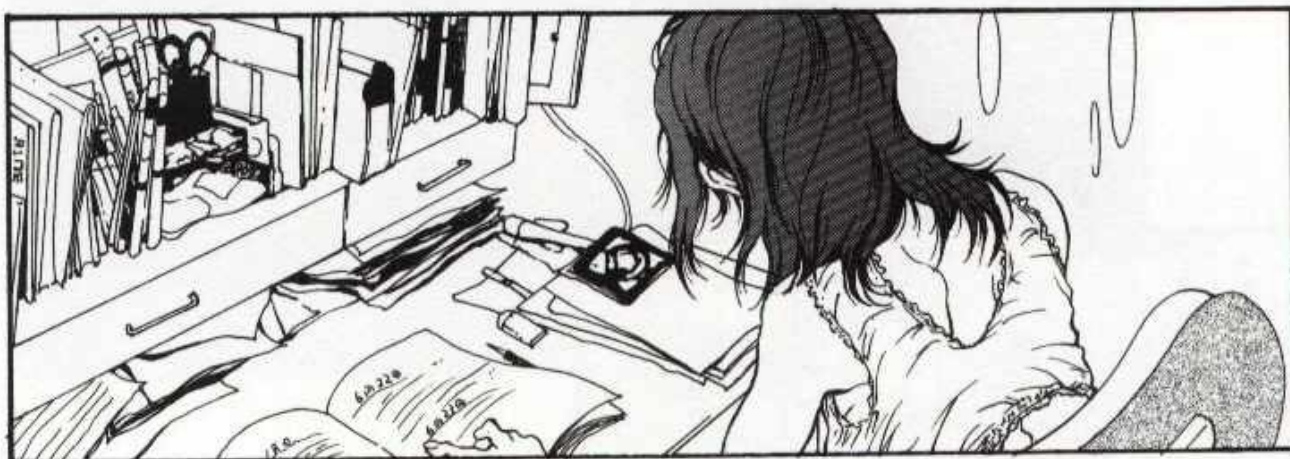
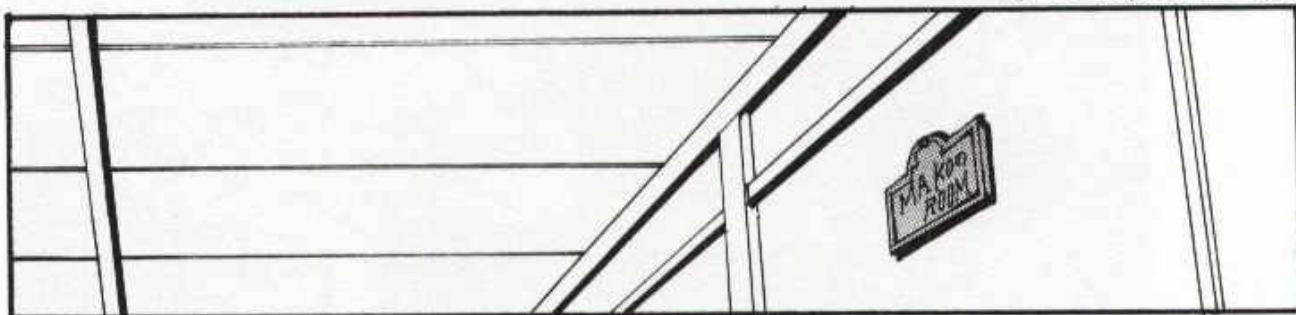


僕達は
ひとつに



なつた……





鉄の兄 鋼の妹

<http://village.infoweb.ne.jp/~fwig2812/>

今回は『得意』の格闘系♥

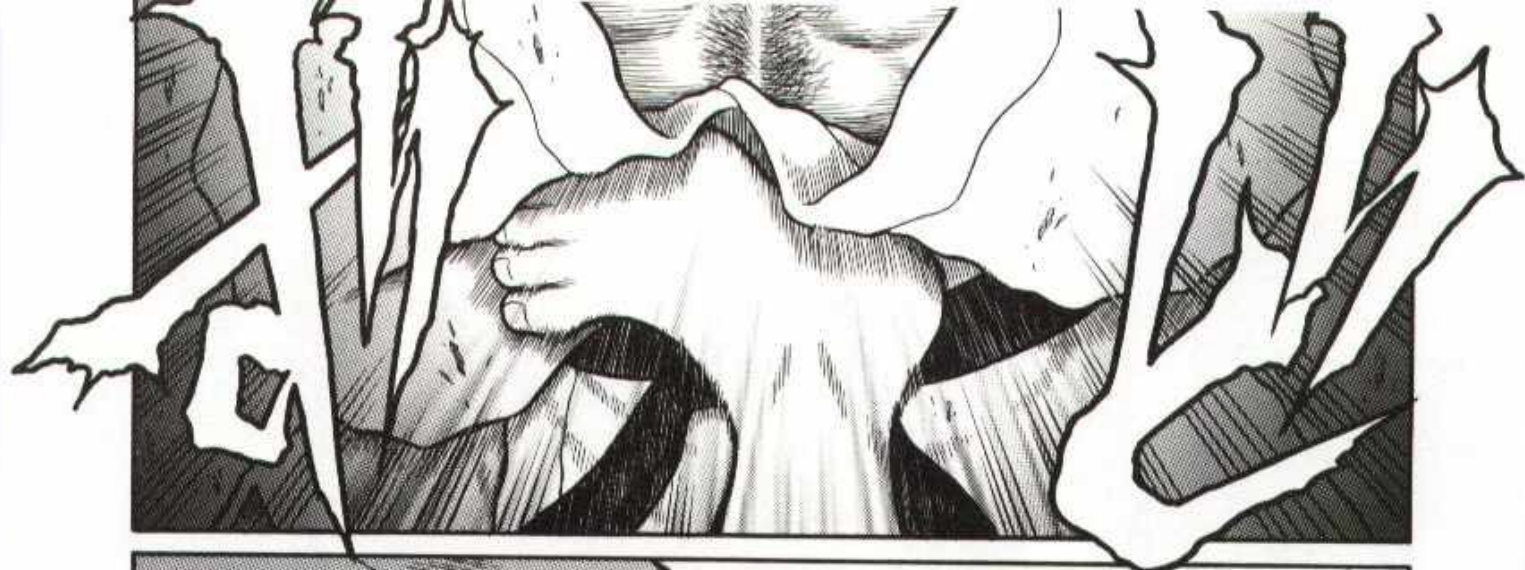


体がしびるっからあう!!

これも血の繋がりが...
兄と妹が、汗しびきをよば

くろがね
鉄の兄 鋼の妹

第六天魔王グレート



ぐ...お...
俺の...

オハコ
十八番の...
正...拳を...!!

フフ...

すまん
な
兄上...



.....

妹の濡れた唇



鉄の兄 鋼の妹



さあて例に
よって約束だ

だがあまり
値の張るモンは
勘弁して――



へへ……まーたしても
ものの見事に
やられちまったな

俺様もまだまだ
修練が足らんと
いうコトか……

そんな事は
無い……いい
勝負だった



……!?

……兄上が
家を出て……

もうどれ
くらい経った
かな……

……ああ!?
ん……そおさ
なア……

もうかれこれ
3・4年にはなるん
じゃねえか!?

……んな事
よりよオ……



鉄の兄 鋼の妹







勝手なのは
兄上 あなたの
方だツ!!

いつだってそうだ
兄上は…私の事
などお構いなしで!!



鉄の兄 鋼の妹



大丈夫か!?
しっかりしろッ!!

しまった
つい……
兄上 兄上ッ!!

ごめ……



…!?



…なるほどな
しっかしオメエ
よオ……

すまん……

兄上は知る由も
なかった事だ…早まっ
たと後悔している

しかしそれでも
私は兄上の
事が……



…後悔
しねえか!? ホントに
オレなんかで……

フフ 兄上
らしくもな……
…んッ!!



オメエのソレは
「男を見る目の無さ」
ってヤツだ

そそんな……

…っとソレを
今のオメエに云っても
ムダだあな



クッ!! 呆れてモノが
云えねえぜ オマケに
そのなりと口調で迫
られてもなあ……

……

…デキのいい奴にや
何処かしらオカシな
トコがあるって云うが

それより気に
ならんか!? その
汗の匂いとか...

ああ!?
バカだな
オメエ...

オトコはなあ
そおゆう方が
燃えるモンなんだよ

んな事より和美
オメエ...初めてじゃ
ねえだろう おん!?

ん.....

...いいつも
独りで...

.....オレが
家エ出たからか!?

いやもっと
以前から...くふッ

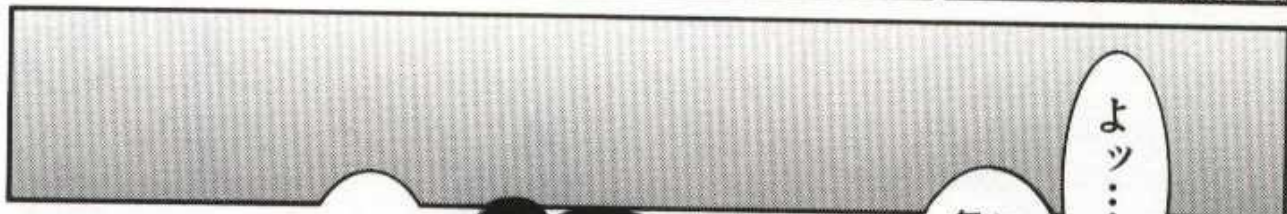
.....

鉄の兄 鋼の妹





鉄の兄 鋼の妹





鉄の兄 鋼の妹



ンなワケ
いくかッ!!

大丈夫だ 今日は
だから一緒に
頼むッ!!



…な!?

テテメエ
何のマネだっ!?



ああアアッ!!
お兄ちゃん
お兄ちゃん!!



お兄ちゃん
好き…

ね?! いい
でしょ!?

…ッ!!



…のヤロー!!

キタネエぞ!!
ハメやがつたな!?

私と…
一緒に…!!

鋼



—あら!?

和美イ
どーしたのオ

兄上エ——!!
居るかあ——!?



……ッ

……おい
剛輝よ……



サア 今日も
いくぞッ!!

覚悟は
いいなッ!?



なあに!?

あ後あ
頼んだ!!



……!?

ああ——ッ!?
今朝ア出し忘れた
燃えねえゴミ
出しにだッ!!

あッ!?! 何処へ
行く兄上ッ!?

終劇



俺はぜんぶ知っているよ
生まれたばかりの真っ赤な顔
幼稚園に行くのがいやでグズった
お前



さらっ…とした癒し系、堪能ください♥

衣がえ

あらきよう

真っ赤なランドセルが嬉しくて
はねながら見せにきたっけ



ほら沙雪！

いつまでも
ぶーたれてないの
学校遅れるでしょ

母さんどうしたの？
沙雪のヤツ

しょうがないのよ
あの子ったら

今日から衣がえなのに
制服着てくって
聞かないの

う~~~~っ

沙雪——い どうしてだ？
暑いからワイシャツの
方がいいだろ

だって——！！

せっかく入学して制服
着れたのになんでもう
ダメなお!?
沙雪制服好きなんだもん







衣がえ



さっ
沙雪!!



おまえ
しっした...

ぽかん

なんで?



ぶっ
ぶっ
ブラジャーもっ
つけてないのかっ!?



や...

あ...

お兄ちゃんのエッチ!

しっ知るか!!



イテ...テテ

お...俺どうかしてるよ

体見てコーン
するなんて

コトコト...
あの...

お兄...ちゃん

うわあ

はははいっ

相談があるの



お兄ちゃん
沙雪...
そろそろつけた
ほうがいいのかあ

な...
なにを?



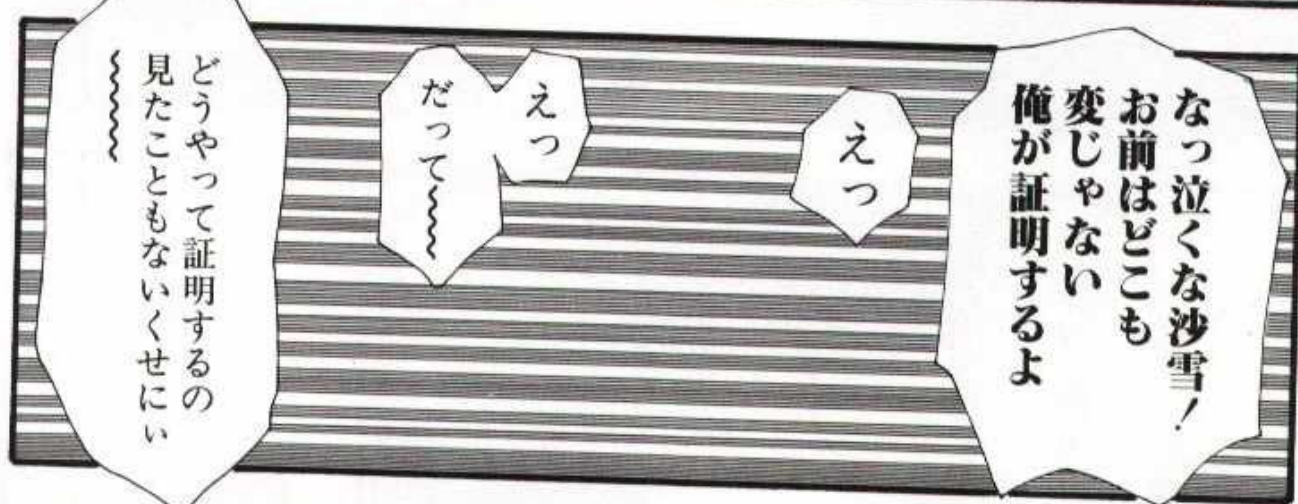


沙雪：どこか
おかしいのかなあ
胸だってぜんぜん
ちっちゃいし



…プブラジャー

クラスみんなが
沙雪のこと成長遅いって
言うんだけど



なっ泣くな沙雪！
お前はどこも
変じゃない
俺が証明するよ

えっ

えっ

だって

どうやって証明するの
見たこともないくせにい



じ…じゃあ

見せて…みろよ



これでいい？

こ…



俺が確かめてやるよ

ほ…ほんとう？



さっ 沙雪イッ

ん…っ

痛！！

いっ



た…たしかに
ちっちやいけど

さわって…みれば







うん…
ぺろぺろしてあげるね



沙雪 おっ俺の…



気持ちいい…っ

るるるーっ

うっ
ちゅっ



うっ

はっ沙雪いゝゝゝ
すごいっすゝゝよ





はあ

はあ

ねえ…
お兄ちゃん

クラスにも
えっちした子って
いないんだよ



沙雪…
一番のりで大人だね

そしてお前は
またひとつ新しい顔を
手に入れたんだね

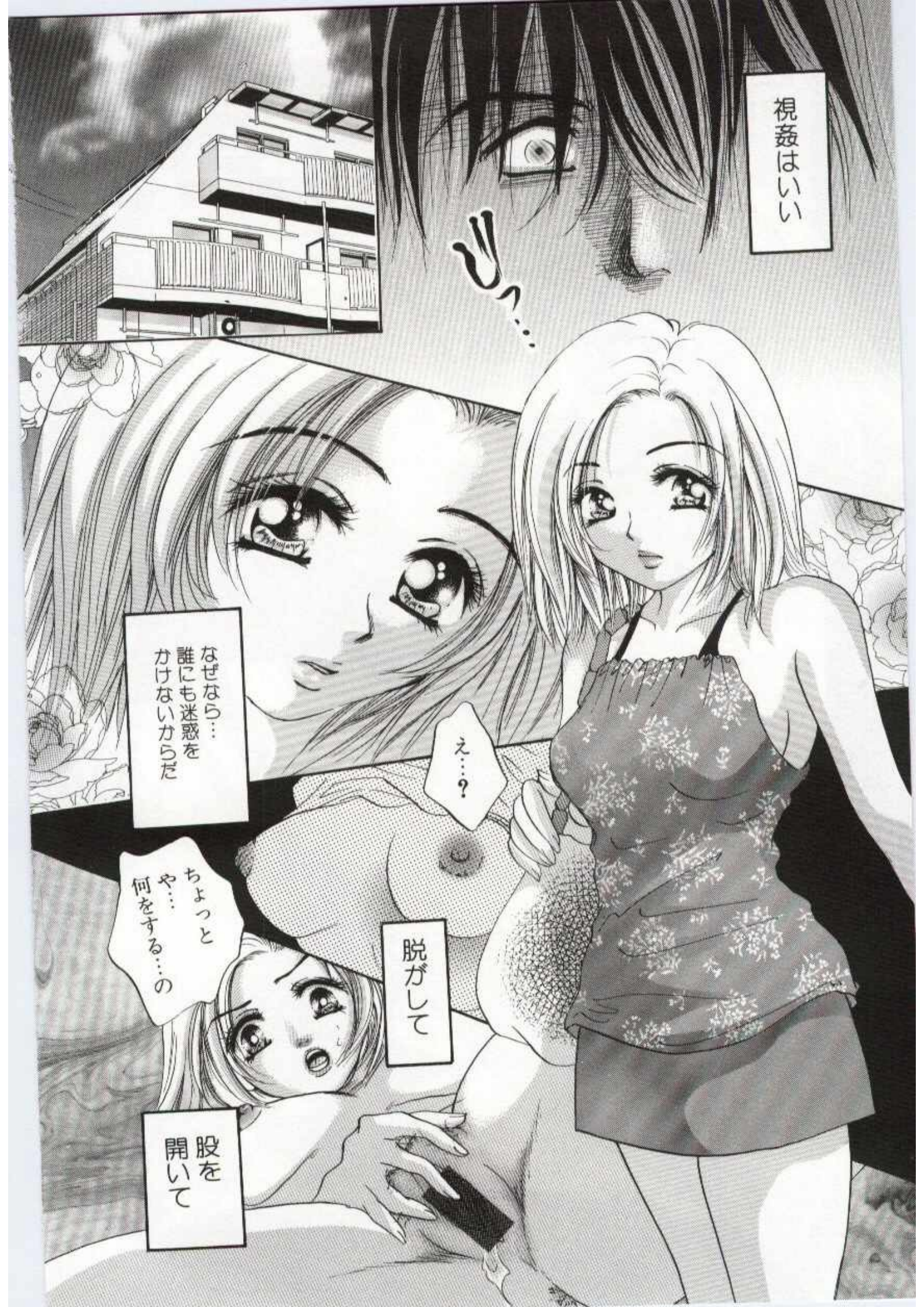


おしまい

兄の夢想在現実に
具象化する時!!

白昼夢

咲夜しおん



視姦はいい

なぜなら…
誰にも迷惑を
かけないからだ

え…？

ちょっと
や…
何をする…の

脱がして

股を
開いて

俺のちんぽを
ぶち込む

いやああっ
やめてえ
やあっ

イヤガつても
ムリヤリ
犯る!!

あうっ

あっ

腰は激しく
動かし!!

あう



…ちゃん
お兄ちゃん

ほ

!



あ…
わ悪い
ごめんっ

もうっ…早く
ごはん食べ
ちゃってよっ

おいおいお兄
ちゃん



うん…

ヤバイ…また
まみ子で
やってしまった…



さっきから
呼んでんのに
もーっ



まみ子…



電話か



ね—
まみの事
スキ?

愛してる?



男…

え—…
どうして
言ってくれ
ないの…?



ボウ

…

ボウ

…

えっ！
TELエッチ…？
そんな…やだあ…

えー

テレホン
SEX!?

えー…♥もお…
しょうがない
なア…

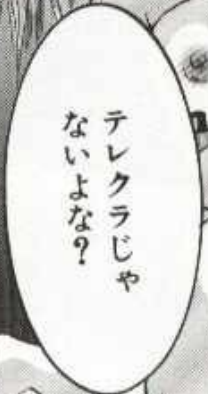
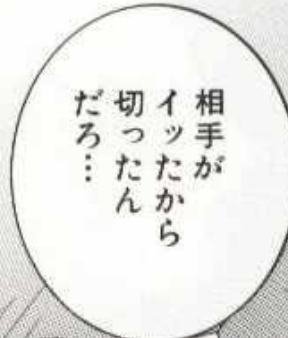
ちよっとだけ
だよー…

んう…

あ…
あんっ…

…





かつ…彼氏だよ
決まってる
じゃん

好きでもない
クセに
電話SEXは
させる男かよ

サ…
サイテー——ッ

やつ…聞いて
たの!!
お兄ちゃん…

ヤダ
もう

こんなところ
濡らし
やがって…

やつ
お兄ちゃん!!

お前絶対
騙されてるよ
その男に

な..
なにっ..
お兄ちゃ..

遊ばれ
てる!!

何すん
のっ..

はっ

そんな男
やめろ..
ヤツ

まみ..

あっ

やだあ..
やめてよオ..

んっ







もう止められないん
だよ...

うっ

んっ



あっ...
はあっ...



ぐっ

ぐっ

ぐっ

ぐっ

凄いよ
まみ子…
突起が
ぶるぶる
してるよ…

想像していた
とおりだ

そ…想像？

ああ
そうさ

俺は…いつも
お前とこうなる
事を…

想像してたん
だよっ

…
きれいだよ

んっ

お尻だって
こんなに
カワイイ♪

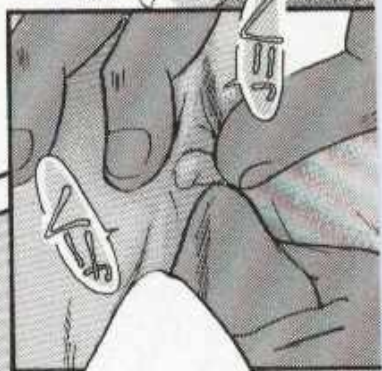
あ…

はあっ

あ…

ずっと…
ずっと好き
だったんだよ
…まみ子!!

ハッ
ハッ



お兄ちゃん…
だめだよ…あたし
カレがいるん
だからあ

はあ

彼?

そいつが何を
してくるって
いうんだ

大切に
してくれないヤツ
なんて…

ちくしょう…

俺の方が…

俺の方が

あああ…
やあつ… そんな
トコ…



よつぽとお前を…

大事にして
やれるさ

かは

あっ

あっ

かは

かは

かは



はあっ

ああっんっ

ひっ

はあっ

夢の中で何度
まみ子を
犯しただろう

お兄ちゃんっ

他の女を何回
まみ子に
置き換えて
いただろう

あっ

あッ

お兄ちゃああんっ

それが今…

おに…

あんっ

夢じゃなく
こんなに現実
だ……

お……
に……

好き……好きだよ
真実……

お前だけだ
ずっとお前だけ
見つめてきたんだよ

愛してるんだ
お前だけを……

愛してる
愛してるんだ
愛してるんだ……

すべての男の
かわりに
言ってやるよ



END

近くて遠い愛

MAC-V

永い時に封じ込められた、兄の想い…
今、解き放たれとして—
永遠となるべく…!!



妹の濡れた唇

お兄イ
ちゃん!!

ちよつとオ
どこよーっ!!

ねー私の服とか
まだ洗ってないの?
昨日洗濯当番
だったでしょーっ!!

しよーがねエだろオ
オレだって忙しいン
だからよオ

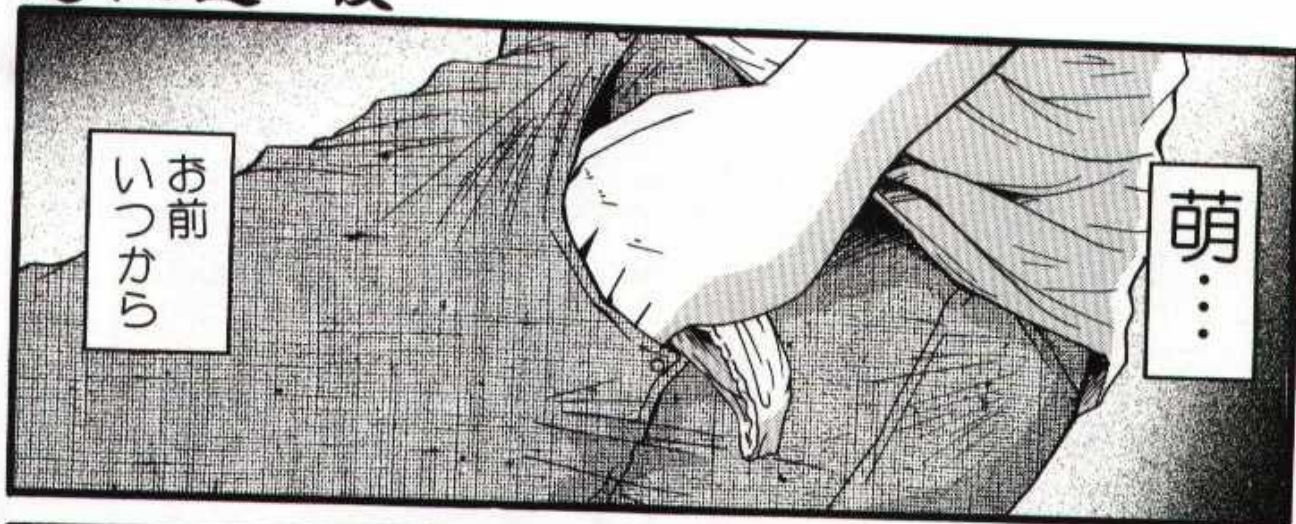
何ヨー
ロクに働いて
ないくせにー

もーっ
お母さん達
来週まで帰って
こないんだから

しっか
りして
よオっ!!

.....

近くて遠い愛



萌…

お前
いつから

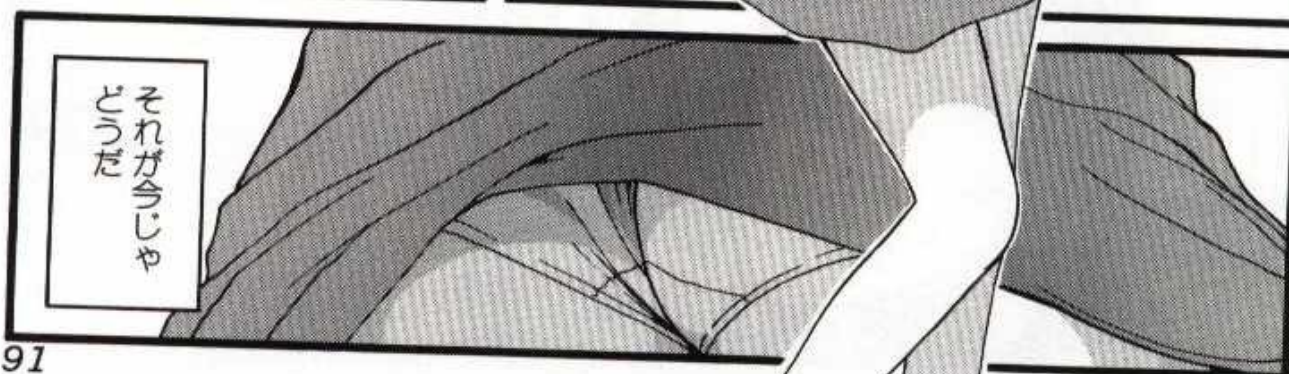


そんな風になつたんだ

そーだに
やだめこと
こーなるー。

ちよつと
前までは

よくオレを
慕ってくれてた
じゃないかよ…



それが今じゃ
どうだ



イヤらしい
メスの匂い
させて

ムチムチ
しゃがって

しまいには
オレを毛嫌い
するようになった



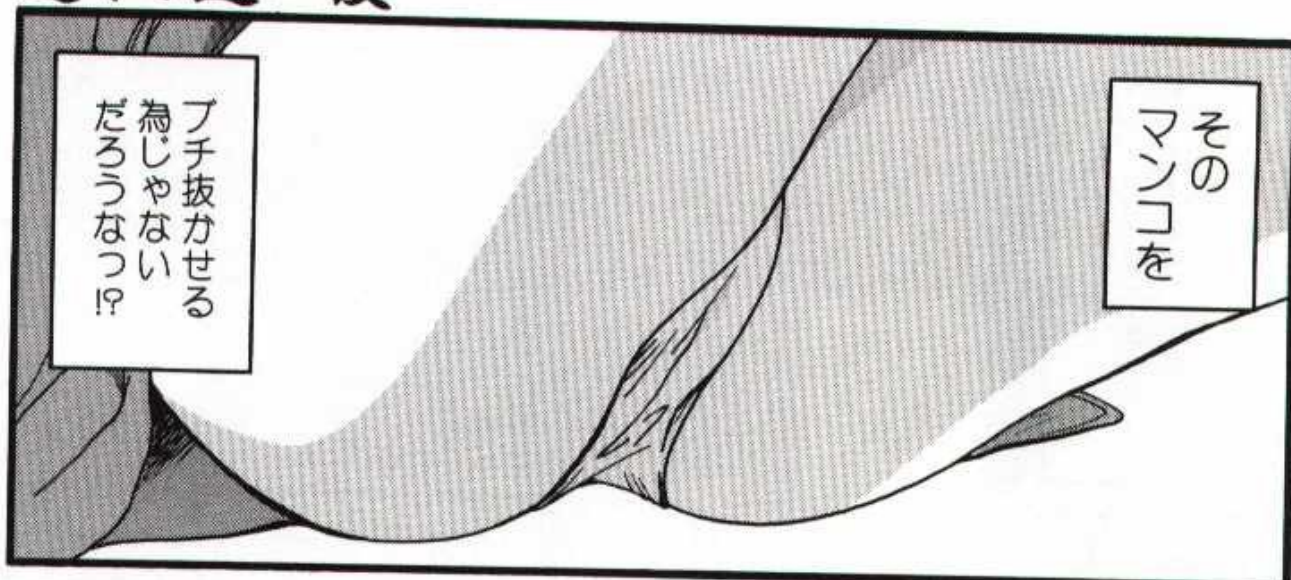
まさか
誰か男？

そのピチピチ
した肌を



おしゃれして
何するつもりだ？

近くて遠い愛

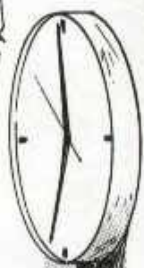


こんな近くに
居るのに

いつか…
わからせて
やるヨ

どうだ!?
わかるか!?

クソッ



近くて遠い愛

お兄ちゃん
ご飯どお…



あっ！

まてヨ：
オレはなア
萌のコト思っ

何で
わからない
？

お前のコトが
好きだから
大切だからさ

だから
……

ハア

ハア

こんな
風に……

いっ…いやっ
ヘンタイっ!!

変態
なんかじゃ
ないよ…

お前のコトを
一番心配して
愛してるから

一番深く
思ってる
からだろ

だから
オレは
こんな風に
なってるんだ

んっ…
イヤっ…

あっ

いやっ…
ヤメてっ…

何言ってんだヨ
萌だってこんな
じゃないかっ

だっ…て
イヤっ!

オレは萌が
ヘンな男に
騙される前に

オレが…
オレが優しく
して—

そっ…
そんなの
ヘンだよお

近くて遠い愛

ここコスると
気が違う位
キモチいいんだヨ

イヤ……
やめ……て

イヤっ……

ほらココ
イヤらしいく光って
糸引いてる
じゃないか

ホラあつ

あつ！

んあああつ

ビュッ

ビュッ

オレにも
その気持ち
を
分けてくれよ

いっ…

うっ

ホラあ
お口にっ…

うぽっ

ああ
イヤらしいよっ
萌のクチの
中に入ってる

クチの中を
出たり入ったり
してるヨ

近くて遠い愛

ああ
イヤらしいよオ
いつも物を食べてる
クチで……

オレを
抜いたりしてエ
うおおっ

うふっ
うふっ

ばぶっ
ばぶっ

ほぶっ

んあっ

ううっ
出るうっ！

ああっ
こんなんじや
オレの想いは
伝わらない

コレを...

コレで
いつもの
萌らしく
なったヨっ!!

ほらアっ!!

ああっ

水

ああっ
萌がオレのを
銜え込んでるの
よく見えるよ

ああっ
ダメえっ

ああっ
おなかがア
ひっぱられるう

ああっ
きつ…
きもち…

あっ

あ
ん

あ
っ
だ
め
っ

あ
っ

お
な
か
が
す
ご
い
よ
お

ふ
ん
ふ
ん

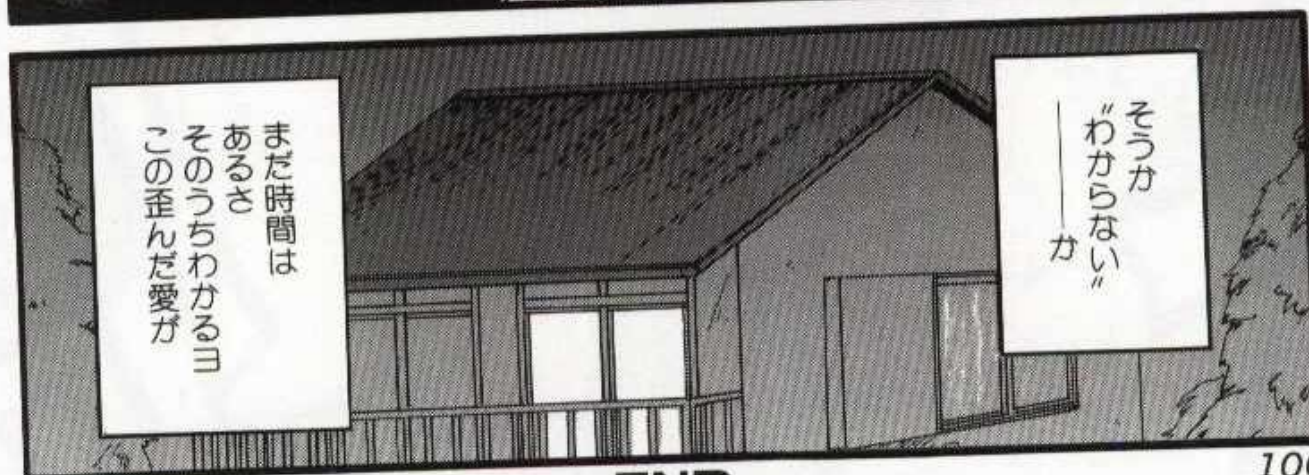
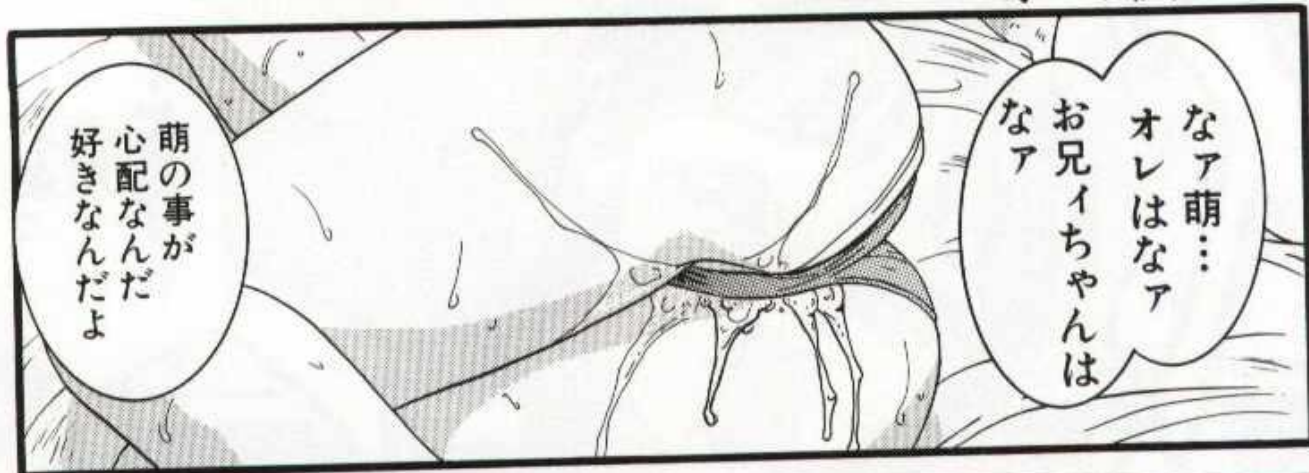


うおおっ
ダメだア
中に出すぞ

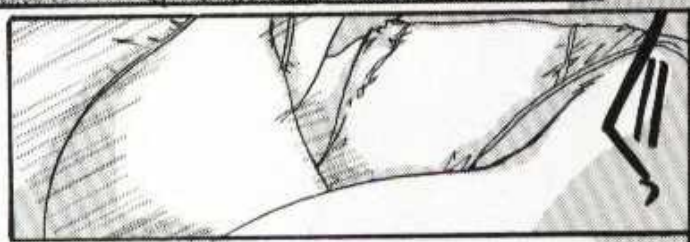
あアンダメエっ
お兄イちゃんダメエっ

んあアダメエっ!!
お兄イちゃんの精子が
ドクドク入ってくるヨお











単行本最新刊「桃色淫液」大ヒット発売中!!

相互関係

DELTA・M



おはよう

おそいよー

はっ

学校遅れ
ちゃうよ

大丈夫
大丈夫

鮎香の大丈夫じゃ
心配だな
いつも遥香が
巻き添えだな

そう言う昼起きの
光兄ちゃんこそなんで
こんな時間に起きてる
のよ



私先に
行くからね

今日は雨かな

へーいつもは
起きないのに

今日は
実験が
あるぞ



ちょっと
待って



遥香



解ったね



光兄ちゃん

ええ…何…



遥香



み…見ての通りって…
何で…

よく知ってるだろう
通常は安眠用として
使うけど
ある香類を混ぜると…

それは…

そろそろ
鮎香も
イイ頃合だと
思ってるね



何って
見ての通り
だよ



!!
!?…え…何…
二人…共…
何…してる…の



いやっ...だめっ

どう
いつも使ってる
香より
キツくしてる
けどね

そ...そんな...
何で...こんな
事を

それはね

鮎香が
お兄ちゃんの事が
好きだから

気付いて無いとでも
思った

二人でシテる時に
お兄ちゃんの名前
つぶやいてたじゃない

ショックだったな...

私とシテるのに

鮎香は
お兄ちゃんに抱かれて
たんだ

だから望みを

かなえて
あげようと
思ってた...

お兄ちゃんね...

私達のシ・テ・た事
全部知ってるのよ

知ってるっていうより
見てたって言った方が
いいかな

カ
ア
ア...

ナメ合いつコしたり

オナニー見せ合ったり

使ってるトコロ
なんかもね

バイブレーターとか

鮎香
ったら

見られてたつて
分かったら
余計に感じて
きちゃったみたい

だったら
ちゃんと見てもらおうよ
お兄ちゃんに

やつ…
やだあ——っ…
ダメっ!!



私の時より
濡れてる

やつ…あ

何か
くやしいな

ひっ
ああっ

あつだめっ
っ…もう…

っ…!!
あああっ

もう
イッちゃったの

お兄ちゃんが
見るからって
早いよ

仕方ないなあ

じゃあ
しばらくは
こうして…

そこで
見ててね

どうしたんだ

やけにイジワルだな

だってお兄ちゃん
鮎香の見て
こんなにしてるし

遥香でも
こうだけど

私の時と
ちがうよ

何だヤキモチ
焼いてるのか

そんな事ないよ

鮎香見てたら
私かまってもえなく
なるかもって...

だって...

そろそろ一緒について
言ったのは遥香じゃ
ないか



凄いな
見てただけで
こんなになっ
てるのか

これだけ濡れてると
前戯無しで
いけそうだ

そんなに
拡げないで...

いくよ
っ...ああっ
ふああっ

あっああんっ

だ...だめ...
ガマンしてたから...

スゲに...
イッちゃう...

じゃあ
鮎香の前で
イカせてあげるよ



ひあっ…
イツちゃうっ…

は…あ…っ

遥香の中に
あんなにたくさん…

光兄ちゃん…

私…

だめ…

私…もう
ガマン出来ないの…

遥香と同じ様に
シテ欲しいのっ

お願い…
お兄ちゃん

はあ
はあ

遥香とオレの精液
まみれのも？

うん…
鮎香と一緒に…

ふあ…

は…入ってくる…
光兄ちゃんのが…

…ひつ…
はああ

凄いな
入れただけで
イッたのか

じゃあ

おれが
イクまで何回
イッちやうかな

もっ…もう…
また…きちゃうっ
あつ



しかし凄いな
香なんてただの
アロマセラピー
だったのに
思い込みで
こんなになる
なんてな

あつ…

ああつ

だめっあ…



私も一緒に…

は…あ
光兄ちゃん…
光兄ちゃん

おはよう

あ
おはよう

光兄ちゃんは？

うん
今寝てるよ

今？

まさか
朝から…

えっ…あつ
その…ね

昨日の今日だけど
今晚はどうか…

うーん
そうね…

でも
巻き込んだ以上
責任はとって
もらわないとね

本・当・に・効・く
淫・香・を・使・っ・て
でもね

おしまい





お兄ちゃんだ

お兄ちゃんって
言えよ

お...

兄ちや

おにいちや...

あ

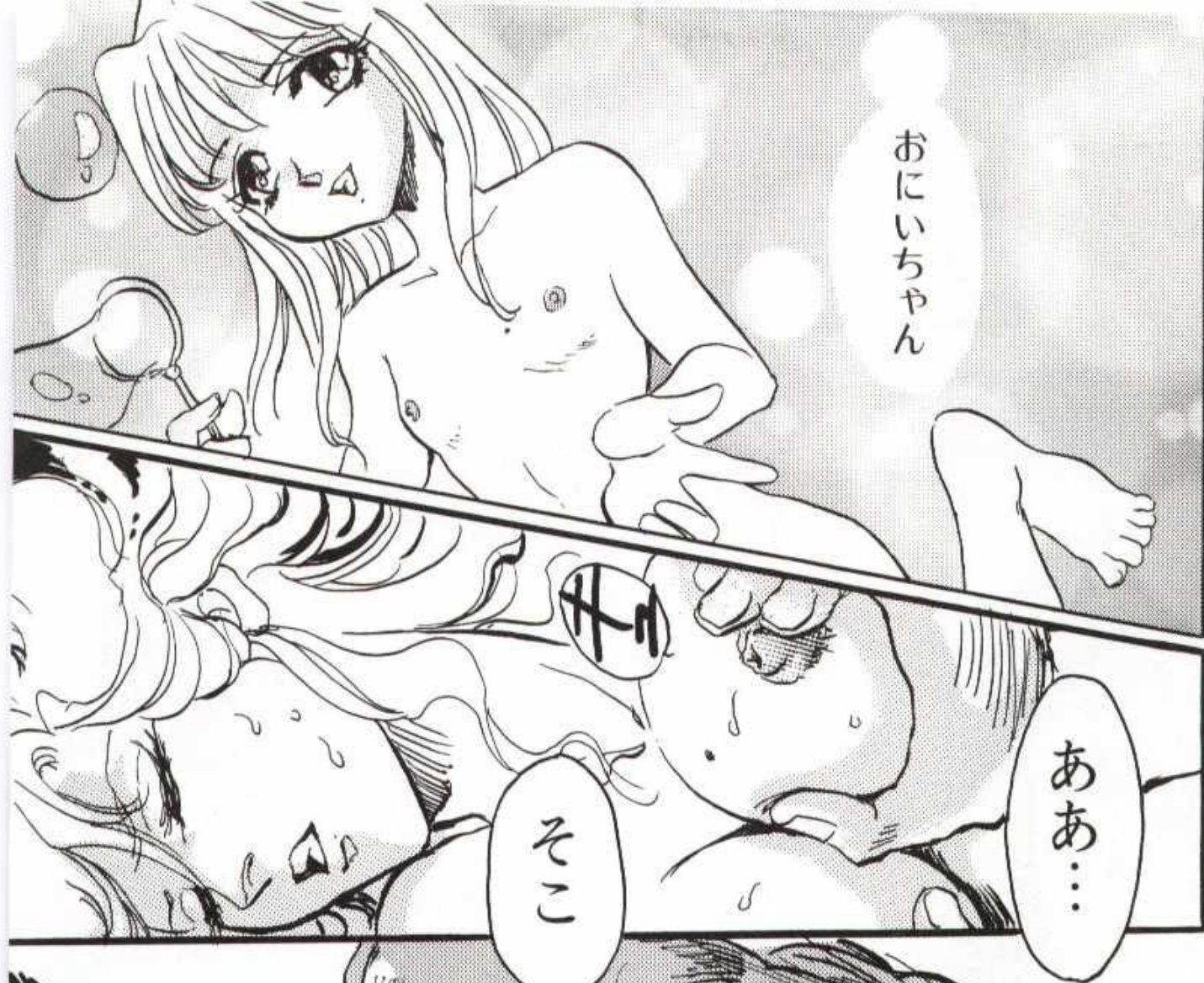
あ
あ

おにいちゃん

由紀

み
あ
ん
な





おにいちゃん

ああ…

そこ



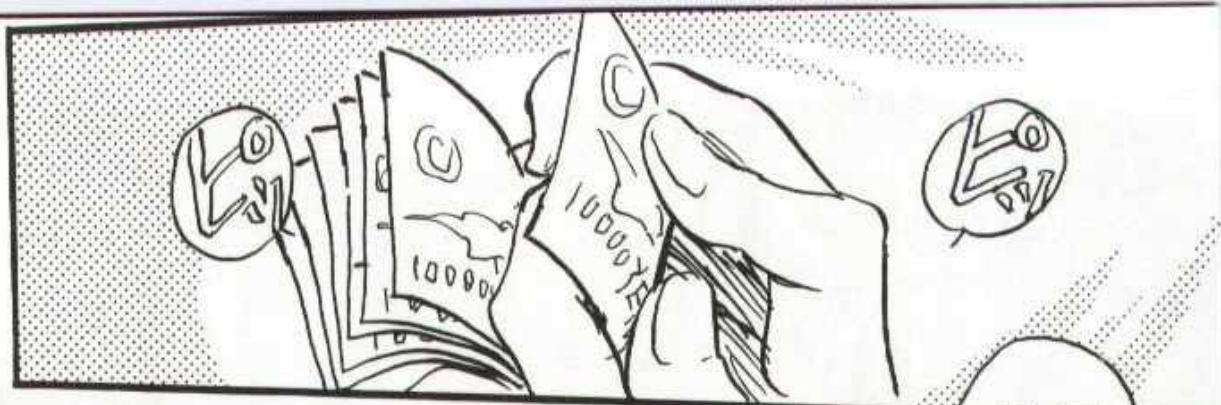
お兄ちゃん

お兄ちゃん

もつとよ

いいわ

お兄ちゃん



毎度
どうもね

また来週
頼むよ

ああ

そらよ
お前の分

ねえ知ってた？

あのじーさん
実の妹にアレだったん
だってね

知ってたん
でしょう

だからあたしに
言わせるのよね

おに——い

ちゃん

ス



ちよつとお
冷たいんじゃ
ないの
さっきまで
バリバリだった
のに

おに——いちちゃん

よせよ
もぐもぐ

あん



ねえ

明日の夜
あたしん家^ちに
来ない？

ジジイ抜きで
濡れるのも
新鮮よきつと



しつこいな！

俺は仕事だけの
付き合いに
したいんだよ

その方がアレの時
新鮮だろ

じゃまた来週な

カチャ

ただいま

おかえり
なさい

おにいちゃん

ほら

例のブルーの
サマーセーター

わあ
うれしい

覚えてて
くれたんだ

さっそく
着てみるね

だつて…

おにいちゃん
しか居ないよ

由紀——

人前で
着替えるの
やめろって言つたら

いいから

言う事を
聞け！

子供じや
ないんだぞ
もう！！

あたし…

ごめんなさい
おにいちゃん

…あたし…

〇〇さんの御主人
ベランダから転落して

いつかこんな事になるん
じゃないかと思ってたわ
お酒が入ると別人のように

奥さんは二年前に
男と駆け落ち…
直也くんと由紀ちゃんが
可哀想で――

殴る音が外まで
聞こえる時があったわ
障害が残らなければ
いいと思ってたけれど

それが…身体じゃ
なく頭の方にね…

あんなに
可愛いお嬢さん
なのにねえ

あたし…

バカだから

由紀…
誰が言った？ そんなこと

みんな知ってるよ
あたしだって…

他の人と違う
ヘンだもん

そんなこと
ない！











今頃は
もう...



由紀!!

あんたが悪い
んだからね

もう遅いよ!!

由紀!!

バシ

な おっ



おにいちゃん

ごめん…
ごめんなさい



カーペット
汚しちゃって

すぐ
キレイに

ギュー



キレイに
するから…



もういいんだ

由紀

キレイに

もう
いいんだよ



お…にいちや



ああ

お...

にい...ちや

ご...

...め...ん

今夜は月が

やけに
冴えて

—END—

突然義妹の告白
いもうと

そして、僕は——!!

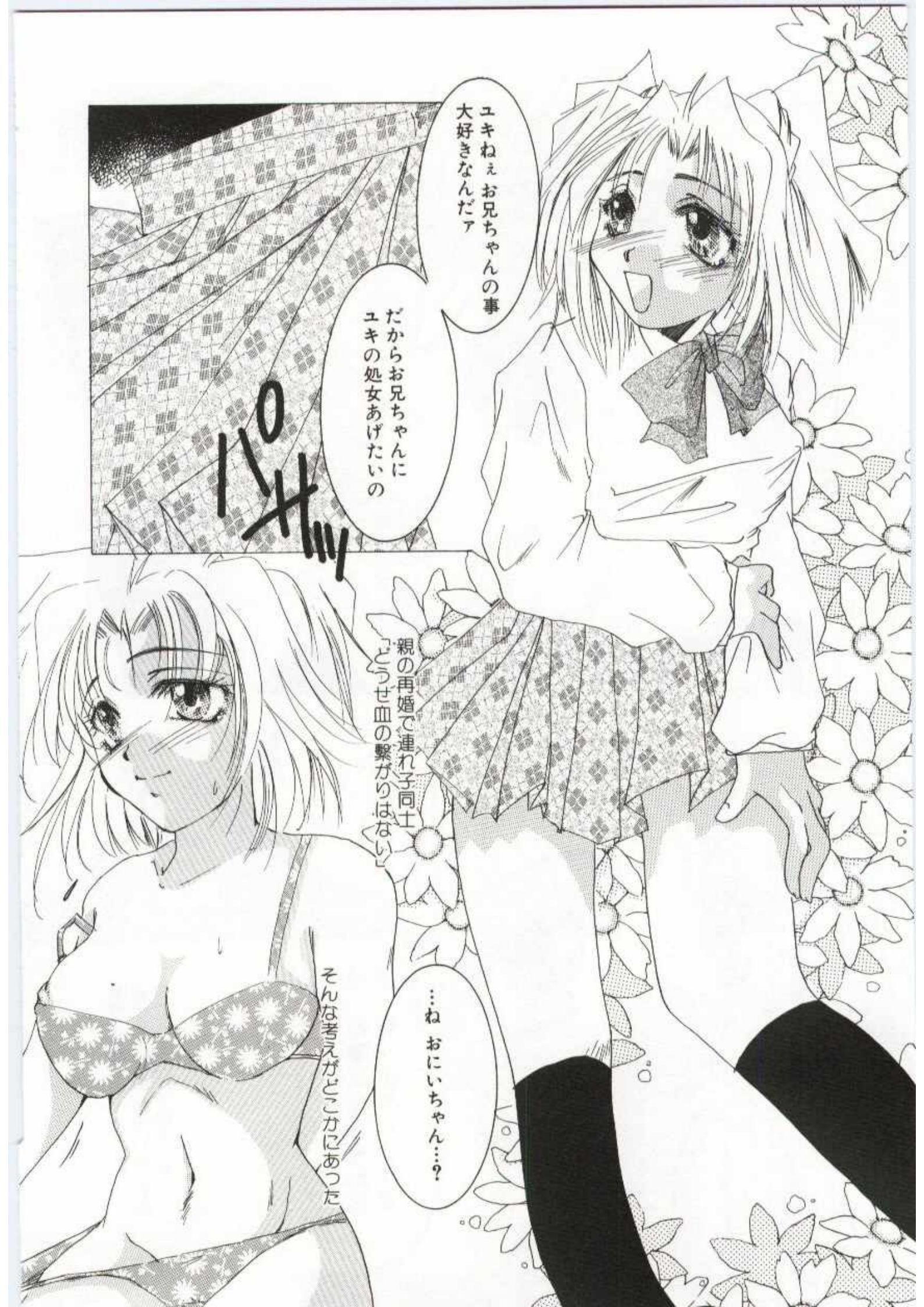
お兄ちゃん
ユキとSEXしようか



義妹の美雪が
突然そんな事を言い出した時
僕は不思議と冷静だった

ね♥ユキと今から
セックスしよう!!





ユキねえお兄ちゃんの事
大好きなんだア

だからお兄ちゃんに
ユキの処女あげたいの

「親の再婚で連れ子同士
どうせ血の繋がりは無い」

…ねおにいちゃん…?

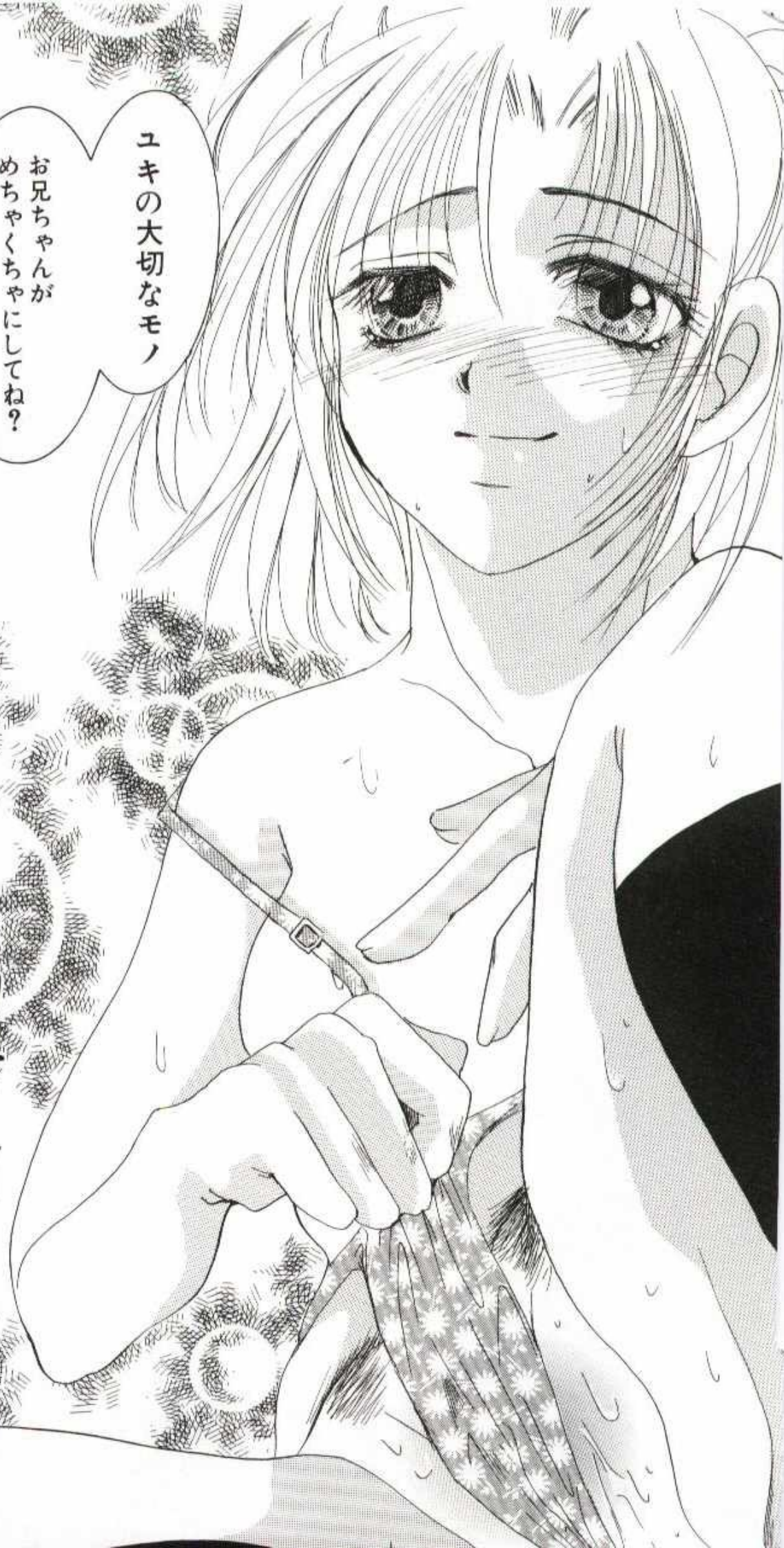
そんな考えがどこかにあつた

ユキの大切なモノ

お兄ちゃんが
めちやくちやにしてね？

ボクメチノカメチ。

飛四子・N



妹の濡れた唇

美雪を女として意識しはじめたのは
きつと僕の方が先だと思う

小さかった美雪が



いつのまにか大きくなって
いつのまにか女になっていて

いつしか僕は美雪を――…
頭の中で犯すようになった



何度も

ひんっ

あっ

何度も！

何度も！！

おに…ちゃ…

ビュッ

ビュッ



頭の中で美雪を犯す度
僕の中の罪悪感が形を変える

コッ
コッ
コッ

赤ちゃん
できちゃ…ッ

やアッ

出さないでッ

ドン

いッ…あア…ッ

いやあ—ッ…

ビクン

だつて…いっつとは
血は繋がってないんだから

ひッ

ひイッ

いやア—ッ

グッ
グッ
グッ

それは…どうも…

…ちゃん…?

おにいちゃん?

はッ



どうしたの？
すごい怖い顔してるよ？

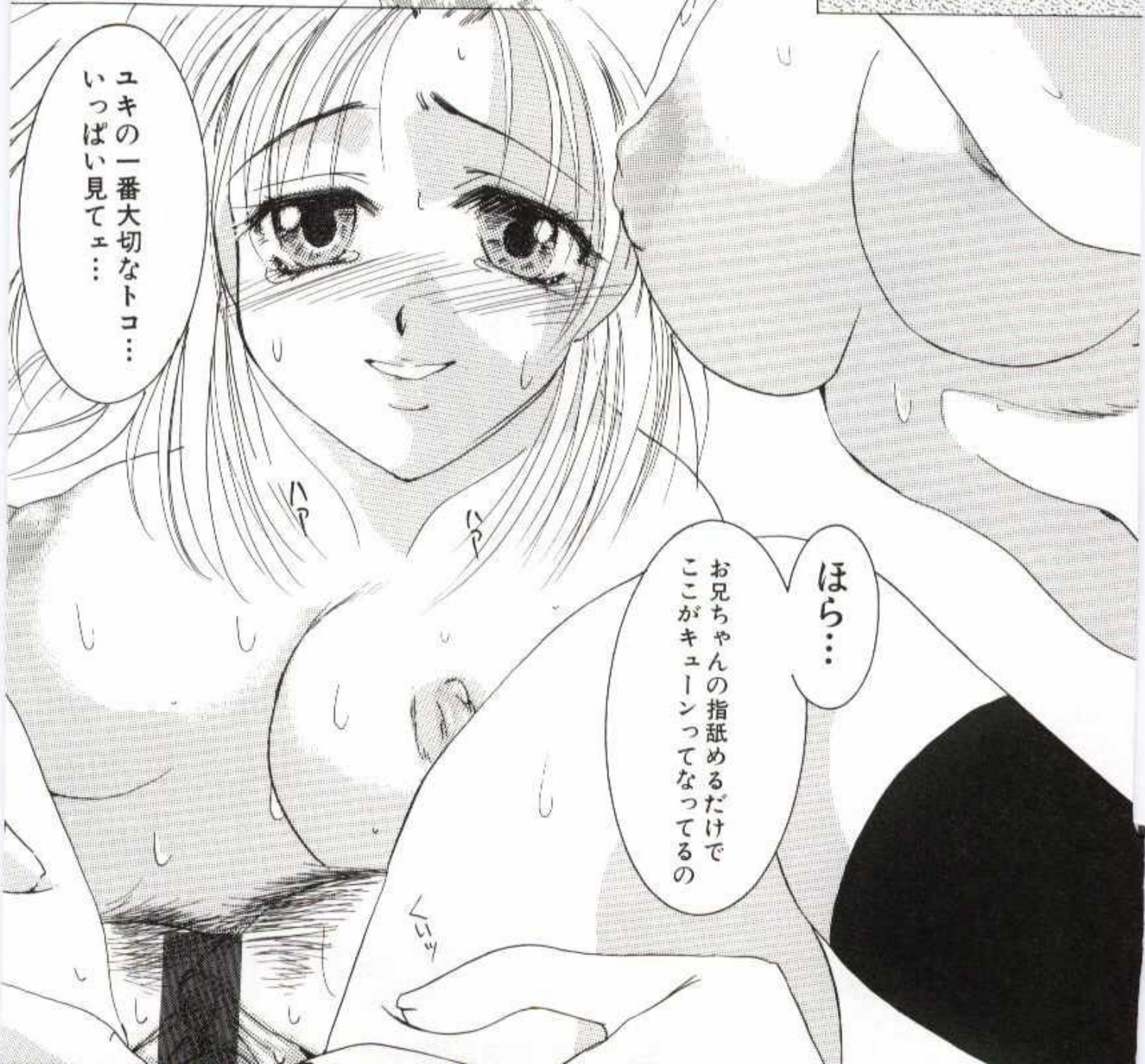
やっぱユキみたいなの
女の子じゃやだ？

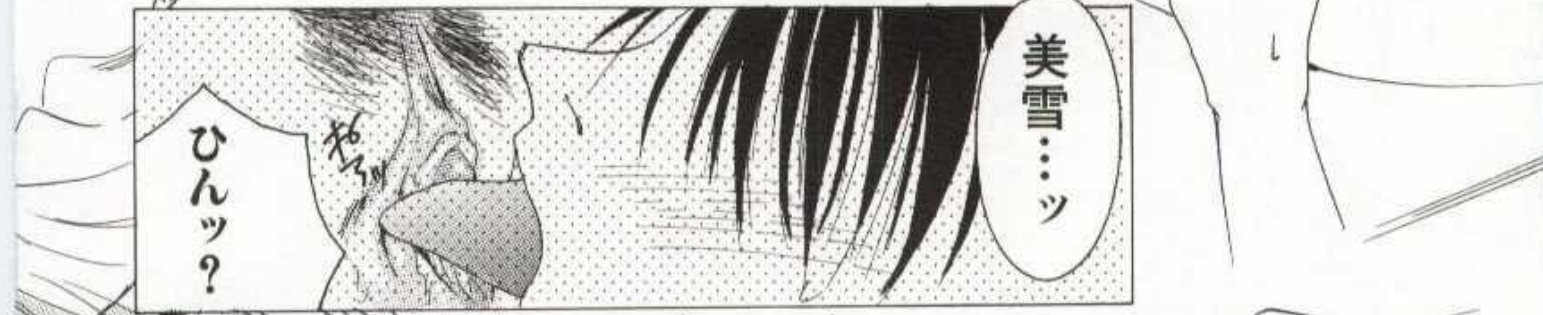
その気になんか
全然なんない？

いや…!!
そんな事…ない！

じゃあ

ユキに触ってくれる？







やアツ...

おに...ちゃ...ア...ツ



あ...ア...

ぶるッ

そんな...舐めちゃ
だめ...エ...ツ



美雪のここは
やらしいなあ...

僕のカオに
シオふいちやったぞ

本当に処女なのかな？
こんなにズッポリ指を
銜えこんでるけど…

ひい…ん

ひッ

い…たア…

いたいイ…

本当に処女かどうか
このまま指で
掻き破ってやろうか？

あ…ッ…ウ…

イヤア…

あア…ッ

う…



それとも僕のコレで
プチ抜かれないか？

言ってみろよ…
コレ何て言うんだっ

あ…
お…ちんぽオ…
おちんぽがいいのオ

あアツ

あ…ツ

ふーん…
そんな言葉まで
知ってるのか…

おにいちちゃんのおちんぽで
ユキの…おマンコしてエ…ツ



…!!

あ…がッ…

ほーら美雪に
兄さんのチンポがどんどん
はいつていくぞ…

ブツッ

—ッ!!

ビュン

ガクン

うアあッ—ッ

ストッ

ミタ

ふん
おっ

痛い!?でもすぐに
スベリが良くなって
楽になるからな…!!

ひぎイ…ッ

あ—ッ…







おにいちゃん…

……

ユキのわがままに
つきあわせて…ゴメンね？



だって

「血が繋がってないんだから
大丈夫、変じゃないさ」

イケナイ事だよ…

本当は変だよ…
兄妹でこんな事
したくなっちゃうの

これからのに
僕が今まで創ってきた
色々なカタチ

美雪にも教えているの

ユキね…ずっと前から
おにいちゃんの事
大好きだったの…

今までの事を言いたす
可愛い美雪



お兄ちゃんとユキ

本当の兄妹なんだもん

お兄ちゃんのパパと
ウチのママ

昔つき合ってたんだって
——知ってた？

ユキはずっと前から
知ってたけど……ね？

ドク

今さらこんな事を言いだす
可愛い僕の「妹」

それでもユキ
お兄ちゃんが
はしくなっちゃうの

今度は
どんなカタチに変えればいい？

元のカタチなんか もう忘れてしまった

……カ
タチ
僕らの罪悪感——

END

ゼロの者

あー、スパロボαやりてー。ソーナンスがいい感じ。
サムライガン面白い。



葛城ゆい

最近、アダルトキャラばっか描いてたので、こういう美少女キャラは久しぶりっス♥



第六天魔王フレート

どエラいモン描いてしもうた……トホホ。ちう訳で某、暫く旅に出る事にいたす。理由は……お察し下されい。



あろきゅん

兄妹モノは好きなテーマ。自分がお兄さん欲しかったからかなあ。でも好きなのと描くのは別。難しいです……



咲夜しおん

最近、Hしてないな——



MAC-V

あーSEXしてエってゆーかFUCKしてエってゆーか寝てエ……ってゆーかやっぱFUCKして……。



DELTA-M

……暑い……ただでさえ部屋には放熱機器が多い上、モノが増えすぎ。部屋の大改造かな？



杉本要

お仕事なのです(嬉)しばらく某工房で、まごとの出版ごっこに振り回されたので、原稿料が嬉しいです……。



飛四子・N

今回の原稿執筆中に19年共に生活してた愛猫と7年生活した愛猫が逝去。悲しすぎるけど仕方ないやね……



編集後記

まじでパソコン覚えようと、I Bookを購入。中古のブルーベリーを探していたが、希望する状態の物が無く、結局は新品のグラフィートを買う事に。これで少しはデータ入稿もスムーズにはかどると嬉しいが、ノート型パソコンはいじった事が無いだけに??の毎日です。

彼女もうと彼の濡れた唇

tsunagu aida

yôkatsuragi

1 【妹の寝息に…】

「おい…アイコ、眠ったのか？」

居間のテレビを見ていた僕のすぐ横で、チヨコレート菓子を頬張り、少女雑誌を読んでいた三つ年下の妹、愛子がうたた寝をはじめた。

「こんな所で寝てないで、自分の部屋に帰れよ」

体を揺さぶっても、妹の眠りは意外に深いようで、ピクリとも動く気配は無い。

「……。」

白いTシャツ越しに乳首が透けて見える。

熟れる直前の桃のように、柔らかいようで弾

力のある胸、ミニスカートからスラリと伸びた白く眩しい脚。その付け根を見ると、水色のストライプが入ったショーツが、自らの存在を主張するように僕の目に飛び込んできた。

兄の僕が言うのも何だが、妹は自分の周りに居る女の子の中では、可愛い顔立ちをしている方だ。小柄な身長だが、渋谷・新宿辺りに遊びに行けば、ストリート系雑誌のカメラマンなんかには、声を掛けられているらしい。

他人に対して優しいし、明るい性格なので、人気があり友達も大勢いる。

同じ兄妹とはいえ、顔も人並み以下で、他人付き合いのあまり旨くない僕とは容姿や、

性格も正反対だ。

妹が中学にあがる以前は、わりと仲の良い兄妹だったが、年を追う事に一緒に出掛けた

り、遊んだりする事も無く、最近ではお互いまともに口を利く事も無くなってしまった。目を閉じて静かな寝息をたてる姿は、妹というより、女として感じてしまい、別の生き物のようだ。

17年間、同じ屋根の下で暮らして来た妹の体をマジマジと見た事は初めてだ。

いや、10年ほど前に見ている。

2 【小さな妹のアソコに指を…】

夏の暑い日、僕と妹は近所にある公営プー



ルで一泳ぎした後、この部屋：居間で昼寝をしていた。母親は今晚行われる町会の盆踊り大会の打ち合わせに出掛けていて留守にしている。

全身を使った水遊びのせいで、二人共ぐっすりと寝ていたのだが、蟬の喧^{やかま}しい声で、僕は目を覚ました。

隣では、妹がまだ濡れている髪の毛のままで寝ている。

この頃、僕の学校のクラスでは、自分より3・4歳年上の兄がいる連中を中心に、性的話題が多くなってきた。自らの手を使っているオナニーのやり方や、どうすると赤ちゃん^{ちゃん}は作れるか、女の子の性器がどんな形をしているか：など。

（勿論、背伸びをしているだけで、自分達は女の子とキスすらした事も無いのだけれど。）
スヤスヤと寝ている妹の顔に近付き、僕は顔を寄せて、その濡れた感じでつやつや光る唇にキスをした。柔らかく、とろけそう^{とろけそう}で、気持ち良い。

「仲間が言っていた女の子のアソコってどんな形してるんだろ。妹も女の子に違いなし、今なら母さんも留守だ。ぐっすり寝て

いるし、気が付かなければ：」

善悪がつかない年頃とはいえ、母親が居ないから：と考えると、必ずしも良い事では無いと思ったのだろう。しかし、一旦そのイケナイ考えにとりつかれた僕は、その欲望に逆らえなくなり、本能のまま、行動に移した。

妹の体に掛けられていたタオルケットを静かにめくり、素足を撫で廻す。

完全に寝ているらしく、大きく脚を開いたが、さすがに寝ている。ウサギの絵の描いてある下着が見えた。ドキドキしながら、僕はゆっくりと脱がした。

下半身全てをさらけ出した妹の股の間に僕の顔を近づける。ブルから出た後、シャワーを浴びたお陰か、おしっこ^{おしっこ}の匂いはしない。縦一直線にワレメが入っている妹の性器は、男の子に付いている出っ張り^{出っ張り}が無いのは勿論、ツルンとしていて自分が考えていたモノとは違うような気がした。

そのワレメに沿って、指で抜けてみる。中はピンク色だ。口の中にも似ている気がする。うっすらと湿った感じも同じだ。
さらに抜けた。薄い肉の膜が、幾層にもな

って、一番奥はピタリと閉じている。

「ここに自分のオチンチンを入れるんだな：でも、確か入れちゃうと赤ちゃんが出来ちゃうんだ。でも指だけなら：」

ゆっくりと、指を妹の穴に差し込んだ。人差し指ではきつくて中に入らない。そこで僕は改めて小指を入れてみる。ニルンとした感じが指先に伝わる。

と、同時に僕の下腹に変な感じがする。何かオチンチンが痒いような、気持ち良いような：。

ふと、僕は妹のアソコの味が気になった。普通に考えれば、汚いと感じるのだろうが、ピンク色した綺麗なそれは、僕の自制心など吹き飛ばす魅力に溢れていた。

2本の指を使い、左右の襞^{ひだ}を開く。穴の中心から切れ目の上部に向かって、ゆっくりと舌を這わせる。じつくりと味を確かめるように。

味らしきものは感じないが、少しすえた匂いがした。そして、舌を矢のように窄^{すぼ}め、穴の中心に這わせる。

舌の先が1センチ程中に入ったところ、妹の足の指がキュツと、掌^{てのひら}を握るように動いた。

そしてその瞬間、今までされるがままになつていた妹の口から、

「んっ」

と、溜息とも喘ぎともつかない声が漏れた。

「!!」

その声を聞いた僕の心臓は更に早鐘を打つようにドキドキする。額から頬を伝わって、冷や汗が流れた。

妹の目が覚める気がして、慌ててパンツを履かしてタオルケットを掛け直し、何事も無かったように、僕は再び眠った。

3 【大きくなった妹のアソコ】

あれから10年後。大人になった妹が僕の横で、あの時と同じように寝ている。

僕自身も、大人になったが未だに童貞だ。

あれ以来、女の裸に触れた事は無い。

今、気が付いたのだが、この妹以外に女というものを感じ無くなっていたのだ。

今晚は両親、共に親類の家に出掛けている。帰りは明日になる。そして、妹の起きる気配は無い。僕はあの時の続きを再開する事に決めた。

妹はすやすやと寝息をたててる。10年前と違うのは、タオルケット掛けて無いのと、妹

が大人の女になっている事だ。

程良い太さに成長した妹の脚を大きく捻げる。肌は、子供の頃より肌理が細かく、しつとりとした良い肌だ。

太股に沿って撫でるように下半身に手を伸ばす。両肩に妹の脚を抱え、股間に顔を近づけた。ほのかにボディソープの香が匂う。よく見るとショーツ生地の間から黒々とした陰毛が顔を出している。

昔と今を見比べられるのは、兄である僕の特権だ。10年前と体の特徴が大きく異なる部分は、陰毛と豊満になった胸だ。

妹の性器を悪戯するというメインイベントは後回しにして、以前はベッタンコで、全く興味の湧かなかったモノと違い、柔らかさで、こぼれそうな胸から始める事にした。

Tシャツの前部分を顎下まで捲る。すると、たおやかで白く透き通るような乳房が現れた。軽く触れただけで、指が肌にめり込んでいく。まるで、祭りの出店で売っている、水の入っているゴム風船だ。

胸全体の大きさは違って、こじんまりとした可愛らしいピンク色の乳首を舐め転がす。何度か同じ行為を繰り返すと、乳首がコリコ

りと固く勃起始めた。そこを、前歯で少しだけ噛む。すると妹は、ビクンノと、小さく体を仰け反らせた。

《眠っていても、快感が分かるんだ...》

熟睡しているとはいえ、快楽に身を打ち震わす妹に、僕は女を感じていた。

目標を下半身に切り換え、再び股間に顔を向ける。胸をいじってる間に、妹の太股は汗ばんできた。ソープの匂いが強くなって、僕はいやがうえにも気分が高まって来る。

ショーツの生地と生地のつなぎ目に、縦に皺が寄っている。ここが妹の性器らしい。僕はそつと指を這わせる。湿り気があり彼女の体温を感じられ、暖かい。

ついに、ショーツに手を掛けた。妹の大きな弾力のあるお尻から小さな布きれをスリリとはぎ取った。形の整ったヘアが目の前に広がる。緊張からか、小刻みに震える指で茂みをかき分け、彼女の性器が初めて晒された。

それを、美しく例えるなら正に花びらのようだ。別の表現だと貝にも似ている。妹のポツテリとした肉厚な襞は、ホンの少しだけ口を開き、右足の太股側に引っ付いている。襞の先端には、白っぽい粘液がトロリと染みだ

している。僕の精液と違い黄色味が無く遙かに白に近い。

指の先で掬って、鼻に近づけると、刺激臭程ではないが、チーズや発酵した乳製品に似た匂いがする。舌にのせると味自体は余り感じない。もう一度指で掬おうとしたその時、誤って上部にある鬚の分かれ目に爪が当たってしまった。

「んっ！」

妹の体が、その衝撃にエビゾリになる。ワレメを見ると、ヌラヌラした感じの汁気が大量に流れ出ている。その液体に、指が滑ったのだ。

《これが愛液……？ それとこの突起は……》

今度は意識的に、鬚の分かれ目にある皮に隠れた豆状の突起を突つつく。

「あっ……ん……っ」

妹の口から出た呻きは、僕の動きに合わせて、大きな喘ぎに変わる。実物を初めて見るが、クリトリスなのだろう。

親指でその突起を、中指で穴の中に向け同時に、ピストン運動を始める。ゆっくりと出し入れる度に、ヒクッ、ヒクッと収縮する。リズムミカルな動きを激しくすると、愛液が太

股に伝わり、オシリの方まで流れていき、息が荒くなる。

「あう……うっん！」

指を強く挿入すると、妹は大きく呻いた。あまりの大きな声にビックリした僕は、動きを止めた。

《もしかして、寝てるフリをしているのか？》

僕は、疑問を感じた。しかし、動きを止めると同時に妹はスースーと寝息を掻き出す。

また動かすと喘ぐ。このタイミングは、まるで上方漫才のボケとツッコミの呼吸のようで、吹き出しそうになるのを堪えた。

指遊びに物足りなくなった僕は、窮屈なジーンパンを脱いで、パンパンに膨れ上がった自分の分身を、トランクス横から一気に解放して、妹の脚を心持ち広げ、股間にあてがう。《うっかりしていた！》

避妊具を用意していないのに気が付いたが、興奮しきっている僕にはもう、手遅れだ。いざという時には、膣外に射精して、この場を切り抜ける事にした。

4 【とうとう、妹の膣に……】

ヌラヌラした鬚を、左手の指で左右に開く。妹のアソコから流れ出る愛液で、指が滑りそ

うになるのを堪えながら、空いた片手で分身をグッと、一気に突き入れる。

「うっ……あっ！！」

夢の中で、快感を味わっているのか、妹の喘ぎが叫びのように変わった。

しかし、入口の緩さと違い、膣の奥はきつめ、自分が思うほど簡単には入っていかない。

妹の一番感じる、クリトリスをなぶりながら、さらに多くの愛液を放出させ、子宮への路に沿って挿入を続ける。

目が覚めないように気を遣いながら、ゆっくりと、肉棒を埋めていく。愛液のぬめりと、膣口の狭さに苦悶しながら、そして実の妹と初めて一体となる喜びと感動を楽しみながら。『んっ……んっ……』

少しずつ、僕のモノがめり込む度に、妹の顔が恍惚の表情を浮かべる。

メリッ、という音とともに、僕のモノの一番太いカリの部分が完全に埋め尽くされた時、『あうん！！』

一叫びした後、妹の全身が一際激しく揺れた。腰の辺りもガクガクと小刻みに震える。

思っていた通り妹の膣奥は、暖かい肉袋の

ようだ。僕の分身を包み込み、根元の部分を強く締め付ける。奥に進むに連れ、狭かった入口とは対照的に広い。

僕と妹の汗と体液で、結合部からヌチヌチとヤラシイ音が聞こえる。

気が付くと、妹の太股は僕の腰に廻され恥骨を激しく押しつけている。その動きに合わせて、大きな乳房がユサユサと揺れる。その間妹の口は、快感を必死に耐えるように歯を食いしばっている。

《そろそろ出そうだな！》

初めて経験する究極の快楽の波に、晒された僕がそろそろ限界に近づくと、突然妹の膣が、ギュッと今までに無い力強さで締まった。同時に、

「あ——っ！！」

大きく声をあげた妹は、どうやら達したようだ。

タイミングがずれたが、妹の膣の収縮を待つて慌てて白濁の粘液にまみれた僕自身を抜くと、彼女の腹の上に果てた。

暫くして僕も落ち着くと、台所へ行き、温かい湯で絞ったタオルで、彼女の股間と腹の上を綺麗に拭いて、衣服の乱れを直し、何事

もなかったように後始末をした。

彼女はまだ、目覚めていない。

5 【彼女の濡れた唇】

あれから数年経った。あの日に何事も無かったように彼女は結婚して家を出ていたが、妊娠をきっかけに出産まで、戻ってくる事になった。そしてまた、僕の隣りに座っている。人妻になった彼女は、更に大きくなった胸、ムッチリとした肉付けになった下半身。子供を宿している割に、腹は目立っていない。体全体から女の匂いを漂わせ、性的魅力を充満させてる。

久々に帰省した彼女と僕は、昔話に華を咲かせた。

小さかった頃、近所の公園で遊んだ事や、中学生になった頃は思春期で、恥ずかしくて、あまり話が出来なかった事などだ。

ふと、話が数年前のあの晩の事におよんだ。「そういえば、その頃お兄ちゃんとは、あまり話とか遊んだりとかしなかったけど、お父さんとお母さんが出掛けていたあの晩だけ……遊んだよね」

彼女の言葉が、胸に突き刺さる。

「ああ……その……」

僕はしどろもどろになり答えに困った。

《遊んだって……あの時僕の横でうたた寝していただけては……》

そこから先、彼女は何も語らない。ただ、キラキラした目が僕に注がれる。その瞳からあの晩、ハッキリと目覚めていたということ、を物語っている。

「なんか、眠くなってきたやつだ」

そう言うとき彼女は、屈んだ体勢で横になる。「お、おい」

目をつぶったまま、起きる気配が無い。早速、寝息を立ててる。試しに、揺すってみるが、全く動かない。

僕は、彼女のふわふわする長めのスカートをたくし上げる。ふくよかな美脚が現れた。すでに、僕にも分かっている。彼女が何を望んでいるのかを。

そして、僕が唯一やり残したことを思い出した。

膣内射精である。これを、達成して初めて妹が彼女となる。妊娠中の今だけが許される行為だ。

彼女の唇が濡れている。小さい頃、あの最初のキスをした時のように。

(終)

—CONTENTS—

ケンカするほど仲良し	
ゼロの者	005
性SAGA	
葛城ゆう	023
鉄(くろがね)の兄 鋼の妹	
第六天魔王グレート ...	039
衣がえ	
あらきよう	055
白昼夢	
咲夜しおん	075
近くて遠い愛	
MAC-V	095
相互関係	
DELTA・M	107
冷たく冴えた月	
杉本要	123
ボクたちノカタチ。	
飛四子・N	141
NOVEL	
彼女の濡れた唇	
間 嗣&葛城ゆう	157

カバーイラスト／ゼロの者
カラーイラスト／かんとり
葛城ゆう
カバーデザイン／篠原隆雄
(hyper design)

いずみコミックスNo.27

2000年7月7日発行

発行人 多田在良 編集人 中沢克昌

発行所 (株)一水社

〒105-0004 東京都港区新橋5-35-8

印刷所 三陽印刷(株)



妹の濡れた唇



咲夜しおん、MAC・V、DELTA・M、杉本要、飛四子・N



妹の淫らな唇が、兄の欲情を刺激する！



9784870764279

ISBN4-87076-427-X

C9979 ¥819E

I.C いずみコミックス
IZUMI COMICS



1929979008192

いずみコミックス②7 雑誌コード53000-27

発行■一水社 定価860円 本体819円

妹の淫らな唇が、兄の欲情を刺激する！



咲夜しおん、MAC・V、DELTA・M、杉本要、飛四子・N